

# 核燃料物質等の輸送(貯蔵兼用)キャスクの 経年変化に対する今後の取組み

2022年4月25日

電気事業連合会

## 今後の取組み

- 四国電力からの要請を受け、緩衝材として用いる木材の熱的劣化による影響について、業界大で取り組むべき課題として検討を行った。
- 緩衝材の経年変化に係る議論は、国際的にも、今後行われるところと認識しており、安全性向上の観点から、国際的な議論の状況を注視する等、**自主的に、緩衝材の経年変化に係る知見の拡充**に取り組み、**新たな知見が得られた場合は、設計への影響を確認**する必要があると考える。
- また、今後、キャスクを廃止する機会を含め、**データ取得のための試験の実施**について検討を進めるとともに、国際的な知見の拡充および情報共有に資するため、国内外の学会で発表を行う等、**積極的な情報公開**に努めてまいりたい。
- 上記の取組みは、電力のみならず、電力中央研究所、メーカー、JAEA等、**業界関係者が広く関与できる会議体を活用し、推進してまいりたい。**

## 【参考】 業界内の取り組み

**業界関係者が広く関与する会議体を活用**し、取り組みを推進する。

### ○**体制:キャスクの設計・使用に係る業界関係者**

電気事業連合会、電力各社（日本原電、電源開発含む）、  
JAEA、日本原燃、原燃輸送(株)、キャスクメーカ、成型加工メーカ、  
電力中央研究所、学識経験者 等

### ○**取組内容:知見拡充および情報公開**

- ・IAEA規則議論状況のフォロー等、キャスク長期健全性に係る[国内外の情報収集](#)
- ・[緩衝材データ取得試験](#)の検討・実施
- ・キャスク長期健全性に係る検討状況および試験結果の[情報公開（国内外学会発表等）](#)